

穴粟でも「無縁社会」は 広がるのか

穴粟市でも「無縁死」があるのか、市役所の担当者に確認しました。

身寄りのない方が亡くなった場合、あらゆる関係者にあたって、なんとか引き取りをしていただいているとのことで、合併以降そのような事例はないそうです。

しかし、生涯未婚者が増え、ひとりで生きることがめずらしくなくなる中、失業や



ふれあい活動(サロン・喫茶)から見守りや安否確認の活動に進化させるなど、地域において様々な波及効果をもたらしています

病気などをきっかけに生活状況が一気に悪化し、支援を求めることすらできない状況に陥った方に、地域としてどうような支援をしていくのか、その仕組みづくりが新たに求められています。

無縁社会が生む、 新たな課題

「人と人とのつながり」が少なくなることⅡ「無縁社会」の進行によって引き起こされている深刻な問題として、今クローズアップされているのが、「保証人」の問題です。

「保証人」がいないと、どのような問題が起こるのでしょいか。身近な問題として次のようなことが考えられます。

- アパートを借りたり、金融機関に資金の借入れを申し込むことができません。
- 就職するときに、身元保証人を立てることを求める企業・事業所があります。
- 入院する際、身の回りの世話をする人の有無を確認されたり、身元保証人を求め

られることがあります。

○介護保険施設への入所申し込みには、身元保証人(引受人)を求められることがあります。

行き詰った人を支える しくみをつくる

保証人の問題は、「人と人とのつながり」が少なく、経済的にも行き詰った人たちにとつて、やり直しを阻む大きな障がいとなります。

そのような人々を包括的に支え、生活のあらゆる面を支援できる仕組みが求められています。保証人に代わる「保証機能」を地域が担う先進的な取り組みとして三重県伊賀市社協では、『地域福祉あんしん保証事業』を始めています。

また、同じ生活課題を抱える人たちが集い、情報交換を行うことなどで、問題の解決をはかる場も必要です。

「何かあったときに保証をする」のではなく、もっと積極的に普段から「何かが起こらないような支援(安心して生活できるための支援)」を

行っていくことがいつそう重要になると考えられます。

小地域ふれあい活動を 進化させた取り組みに

無縁死や保証人など、深刻な問題が広がる中、住民が主体となり取り組んでいる「ふれあい活動」は、住民同士のつながりを強めるものです。

今は、主に自発的に集まる人が中心ですが、閉じこもりがち高齢者や、ひとりで参加できない人たちが参加できるように、もう一歩踏み込んだ取り組みが必要です。

広がりつつある無縁社会を地域の支え合いやつながりを強化することで、包摂社会へと変えていく取り組みが求められています。

「豊かな国ニッポン」は過ぎ去った過去の話ではなく、本当の意味で豊かな国にしていく取り組みを今から始めたものです。

※包摂社会:無縁社会の反対語。家族や地域社会、職場などで、互いに支え合うという基盤が崩壊してしまったことに対して、誰をも孤立させず、もう一度社会の中で支え合おうとする社会